

## 電子楽器の大御所“オンド・マルトノ”六重奏 メシアンの大曲「美しい水の祭典」33年ぶりの全曲演奏



左から田村玲彦、久保智美、ハラダタカシ、市橋若菜、坪内浩文、大矢素子

5月3日（水）午後2時からアクトシティ浜松コンgresセンター41会議室にて、第187回レクチャーコンサート「美しい水の祭典・オンド・マルトノ六重奏のサウンドスケープ」を開催しました。今回のテーマ楽器はオンド・マルトノです。1928年にパリの作曲家でチェロ奏者でもあったモーリス・マルトノ（1898～1980）が考案した楽器で、1920年にロシアで発明されたテルミンと並ぶ、初期電子楽器の大御所です。大作曲家メシアンは大作「トゥランガリーラ交響曲」でこの楽器を使っています。

マルトノは第1次世界大戦（1914～18）で通信兵として招集されましたが、当時の三極真空管の発信音に着目したことが、この楽器の発明へとつながりました。オンドとはフランス語で様々な「波」を表す言葉です。オンド・マルトノは、「マルトノが発明した電波楽器」という意味です。

電子楽器と言うと、単純な音色で、普通の楽器のような音色の変化や表情が出せないと思われがちですが、オンド・マルトノは、まるで弦楽器のヴァイオリンやチェロを彷彿とさせる豊かな音色と表情を持っています。鍵盤での操作と、リボンという独特の装置を使って演奏します。音色は基本となる数種類の音があり、スピーカーも銅鑼を振動させたり弦を振動させるものがあり、その組み合わせによって多彩な音色を出せます。鍵盤はありますが、2つ以上の音は同時に出不ない単音楽器です。また指の操作でヴィブラートをかけることができます。

演奏は、世界的演奏家のハラダタカシさんと、その門下生5人です。ハラダタカシさんのソロで、自作の「フリーウェイ」から始まり、会場は一瞬にしてオンド・マルトノ独特の音世界に包まれました。2曲目はオンド・マルトノの二重奏でミュライユ作曲の「マッハ 2.5」、さらにピアノが加わり3人でハラダタカシ作曲の「マッハ・バツハ」、そして前半最後はシャルパンティエ作曲の「オンド・マルトノ四重奏曲」から第4楽章が演奏されました。後半は、出演者全員でいよいよメシアンの大曲「美しい水の祭典」です。この曲は1937年パリ万博のセーヌ河畔での催し「音と光の祭典」のために、パリ市が20人の作曲家に委嘱したオンド・マルトノを含む作品の中のひとつです。水の永遠性を讃え、ゆったりと続くメロディー、打ち上げ花火やイルミネーションの華やかさを思い起させる賑やかなフレーズなど水の魅力を、オンド・マルトノ6台の電子音が創り出しました。

日本でのこの曲の演奏は、1984年に故・武満徹の招きでハラダタカシさんの師でもある故・ジャンヌ・ロリオを含むフランス人演奏家による全曲日本初演と、2002年の日本人6人での抜粋演奏があります。全曲演奏は33年ぶりで、初の日本人のみによる全曲演奏という、歴史的な演奏会となりました。

日 時：平成29年5月3日（水）14:00～15:30  
会 場：アクトシティ浜松 コンgresセンター41会議室  
出 演：ハラダタカシ、市橋若菜、久保智美、坪内浩文、田村玲彦、大矢素子  
入場者：143人

## ゴールデンウィークミュージアムサロン「バンジョー&アコーディオン」



日 時：平成 29 年 5 月 3 日（水） 14:00、15:30（各 30 分）  
 会 場：楽器博物館 天空ホール  
 出 演：Banjo&Accordion  
 稲川友則（バンジョー）、柴田貴子（アコーディオン）  
 入場者：280 人

5 月 3 日（水）は、Banjo & Accordion の稲川友則さん（バンジョー）と柴田貴子さん（アコーディオン）に演奏していただきました。

バンジョーとアコーディオンという珍しい組み合わせで「ジャンゴズキャッスル」「真実のワルツ」「リベルタンゴ」などを演奏していただきました。

バンジョーは弦をはじいて音を出す弦楽器で丸い胴体の特徴です。カントリーミュージックやブルースなどによく演奏され、その音色は明るく軽やかです。今回はヨーロッパでバンジョーが流行していた 120 年前にイギリスで製作されたバンジョーもお持ちいただきました。当時の楽器で音楽を聴くという大変贅沢な時間を過ごすことができました。

アコーディオンは演奏者から見て右手はピアノのような鍵盤がついていますが、左手には丸いボタンがついていて、一つのボタンで和音が出せるようになっています。今回、柴田さんに 2 つのアコーディオンをお持ちいただきましたが、どちらも 11 ～ 13kg ととても重いです。小学校で使用されているアコーディオンは 4kg ほどですので、それに比べると随分と重いことがわかります。

演奏のほかにバンジョーが日本に持ち込まれた時の貴重な資料を見せていただいたり、演奏後も楽器体験の時間があり、楽器の良さを存分に感じられる充実したコンサートになりました。

## ゴールデンウィークミュージアムサロン「リードオルガン」

5 月 4 日（木）の 11 時と 14 時 30 分の回は鈴木開さん（リードオルガン）と名倉亜矢子さん（ソプラノ）に演奏していただきました。

リードオルガンは約 170 年前にヨーロッパで誕生し、その後アメリカやその他の地域へ渡っていきました。日本にやってきたのは約 150 年前でキリスト教の宣教師が持ち込みました。その後日本では音楽教育にも用いられるようになり、一時は日本の小学校の 8 割には設置されましたが、現在では国内で生産はされておらず、見聞きする機会も少なくなりました。使用したリードオルガンは当館所蔵の楽器で、エスティ社製造 1891 年製のものです。パーラー・オルガンと呼ばれるもので、可愛らしい彫刻が施されていたり、鏡がついていたりする豪華な楽器です。

2016 年には浜松市楽器博物館のシリーズとしてエスティ社のリードオルガンを使用し、鈴木開さんと名倉亜矢子さんの演奏による CD「この道」をリリースいたしました。コンサートでは CD の収録曲から、「春の小川」「朧月夜」「夏は来ぬ」「みかんの花咲く丘」「茶摘み」「浜辺の歌」などが名倉さんの美しい透き通った歌声で歌われ、鈴木さんのリードオルガンのソロで「椰子の実」などが演奏されました。どれも世代を越えて楽しめる作品ばかりで、多くのお客様が懐かしさを感じる音色に聴き入りました。



日 時：平成 29 年 5 月 4 日（木） 11:00、14:30（各 30 分）  
 会 場：楽器博物館 天空ホール  
 出 演：鈴木開（リードオルガン）、名倉亜矢子（ソプラノ）  
 入場者：265 人

## ゴールデンウィークミュージアムサロン「ハーモニカ」



日 時：平成 29 年 5 月 4 日（木）13:30、15:30（各 30 分）  
会 場：楽器博物館 天空ホール  
出 演：宮田薫（ハーモニカ）、金山智彦（ピアノ）  
入場者：301 人

5 月 4 日（木）の 13 時 30 分、15 時 30 分の回は、宮田薫さん（ハーモニカ）、金山智彦さん（ピアノ）に演奏していただきました。

コンサートの始めに宮田さんと嶋館長がハーモニカの音の出る仕組みを分かりやすく解説してくださいました。ハーモニカは、リードと呼ばれる薄い金属の板が中に入っており、息を吸ったり吐いたりしてリードを震わせて音を出します。息を吸っても吐いても音が鳴る楽器は珍しく、演奏するときは特に息を吸って鳴らす音が続く大変なのだそうです。今回宮田さんが演奏に使用したハーモニカは「クロマティック・ハーモニカ」というもので、楽器に付いているレバーを操作することで、一般的なハーモニカでは不可能な半音を鳴らすことができます。さらに、宮田さんのハーモニカでは、低い音から高い音まで 4 オクターヴの音域を一台で出せるそうです。コンサートでは、クロマティック・ハーモニカの特徴を生かした曲「ヴァルゼンティーノ」をはじめとして、バッハ作曲「主よ人の望みの喜びよ」、やジャズのナンバー「スペイン」、そして「ハナミズキ」など、親しみやすい暖かい音色で幅広いジャンルの音楽を演奏していただきました。

浜松市には、楽器メーカーの本社がたくさんありますが、ハーモニカの生産も盛んに行われています。浜松とのゆかりの深いハーモニカの魅力を再発見することができたコンサートとなりました。

## ゴールデンウィークミュージアムサロン「テルミン&マトリョミン」

5 月 5 日（金）、6 日（土）は、テルミンとマトリョミンのミニコンサートを開催しました。

テルミンとは、1920 年にロシアのレフ・テルミン博士が発明した世界初の電子楽器で、手で触れずに演奏することが特徴です。楽器から伸びる 2 本のアンテナに手を近づけたり離したりして、音程や音量を変えながら演奏します。1 本は楽器から垂直に伸びるもので、右手を使って音程を変えるのですが、アンテナに近づくほど高い音が鳴ります。もう 1 本は水平方向に伸びており、左手で音量を変えるときに使います。こちらはアンテナに手を近づけると小さな音、手を遠ざけると大きな音がします。演奏する姿はさながら空間を操る魔法使いのようですが、テルミンの音は弦楽器や歌声のような優美な音色でした。そして、マトリョミンは、テルミン演奏の第一人者である浜松在住の竹内正実さんが発明した楽器で、ロシアの伝統的な入れ子人形「マトリョーシカ」にテルミンの機能の一部を収めたものです。テルミンと同様の奏法で音程をとりますが、音量の変化はつきません。コンサートではソロだけでなく合奏の演奏もしていただきました。

今回は演奏の他にも、テルミンの歴史を学べる展示や、テルミンとマトリョミンの体験コーナーもあり、多くのお客様で賑わいました。電子楽器の魅力に触れることのできる大変貴重な機会になったのではないのでしょうか。



日 時：平成 29 年 5 月 5 日（金）13:00、14:00、15:00、15:50（各 20 分）  
平成 29 年 5 月 6 日（土）12:00、13:00、14:00（各 20 分）  
会 場：楽器博物館 天空ホール  
出 演：小林直美、後藤妙苗、安藤玲子、濱口晶生、岡留美、マトリョミンアンサンブル「da」、浜松マトリョミン同好会「浜マト」  
入場者：5 日 460 人、6 日 326 人

## 新着資料「フラジョレット」

昨年の収集資料の中から兵庫県宝塚市の増田豊春さんが製作、寄贈されたバードフラジョレットの一部を現在展示しています。

バードフラジョレットは 18 世紀から 19 世紀に流行した小さな笛で、小鳥にさえずり方を教えたり、小鳥のさえずりを真似るのに使われていました。増田さんは能面の作家でありながら、リコーダーやフラジョレットの製作も行っています。

6 月末まで展示の予定です。小さくて可愛いフラジョレットを是非ご覧ください。



## ボール紙とストローで鳥笛を作ろう!!

当館では、ボランティア活動の一環として小学生（3 ～ 6 年生）に向けた楽器づくりワークショップを行っています。2015 年より始まったこのワークショップは月に一度を目標に開催し、これまでに 250 名の方に参加していただきました。

工作はボール紙に穴を開けて丸め、吹き口となるストローをテープで留めるという簡単なものですが、完成するとピーと良い音が鳴ります。筒の両端を指で押さえると音が変わるので鳥の鳴き声を真似することも出来ます。

次回は 6 月 25 日（日）午前中、楽器博物館展示室で行う予定です。ぜひ遊びに来てください。

### 博物館日誌

- 3/26（日）展示室ガイドツアー 11:00（鍵盤）、14:00（アジア）  
参加者：91 人
- 4/2（日）展示室ガイドツアー 11:00、14:00（鍵盤）参加者：57 人
- 4/9（日）展示室ガイドツアー 11:00、14:00（鍵盤）参加者：62 人
- 4/16（日）展示室ガイドツアー 11:00（アジア）、14:00（鍵盤）  
参加者：64 人
- 4/23（日）展示室ガイドツアー 11:00（アジア）、14:00（鍵盤）  
参加者：25 人
- 4/23（日）楽器づくりワークショップ「とり笛をつくろう！」  
10:30、11:30 地下展示室 指導：ボランティア 参加者：12 人
- 4/30（日）展示室ガイドツアー 11:00、14:00（鍵盤）参加者：64 人
- 5/3（水）「美しい水の祭典～オンド・マルトノ六重奏のサウンドスケープ～」  
14:00 アクトシティ浜松コンgresセンター 4 階 41 会議室  
出演：ハラダタカシ、久保智美、坪内浩文、市橋若菜、大矢素子、  
田村玲彦 入場者：143 人
- 5/3（水）「バンジョー＆アコーディオン」 14:00、15:30  
出演：稲川友則（バンジョー）、柴田貴子（アコーディオン）  
入場者：280 人
- 5/4（木）「リードオルガン」 11:00、14:30  
出演：鈴木開（オルガン）、名倉亜矢子（ソプラノ）  
入場者：265 人
- 5/4（木）「ハーモニカ」 13:30 15:30  
出演：宮田薫（ハーモニカ）、金山智彦（ピアノ）  
入場者：301 人
- 5/5（金）「テルミン＆マトリョミン」 13:00、14:00、15:00、15:50  
出演：小林直美、後藤妙苗、安藤玲子、濱口晶生、  
マトリョミンアンサンブル「Da」 入場者：460 人
- 5/6（土）「テルミン＆マトリョミン」 12:00、13:00、14:00  
出演：岡留美、濱口晶生、浜松マトリョミン同好会「浜マト」  
入場者：326 人
- 5/7（日）展示室ガイドツアー 11:00、14:00（鍵盤）参加者：54 人
- 5/14（日）展示室ガイドツアー 11:00（鍵盤）、14:00（第 2 展示室）  
参加者：27 人
- 5/21（日）展示室ガイドツアー 11:00（鍵盤）、14:00（アジア）  
参加者：23 人
- ♪ギャラリートーク  
（職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで 10 分間ほど解説）  
4 月 計 102 回 参加者：1528 人  
5 月 計 97 回 参加者：1073 人

### これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説  
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- 特別展  
7/23（日）～ 8/31（木）「耳をすませば浮世絵に、文明開化の音がする」
- 講座  
8/4（金）特別展開連講座「音の錦絵～絵師たちの見た洋楽器～」  
19:00 ～ 21:00 楽器博物館展示室 講師：澤崎真彦（東京学芸大学名誉教授）、  
演奏：平野伸芽（ソプラノ）、岡田智恵子（ピアノ伴奏）
- レクチャーコンサート  
7/6（木）「熱狂のホローボ～南米コロンビア平原の歌・楽器・ダンス～」  
19:00 楽器博物館天空ホール 出演：シマロン（コロンビアより来日）
- ワークショップ  
8/7（月）子どもワークショップシリーズ  
「アフリカの楽器・親指ピアノをひいて、アフリカンリズムを楽しもう！」  
A13:00 ～ 14:30/B15:00 ～ 16:30  
アクトシティ浜松研修交流センター 36 音楽セミナー室  
講師：サカキマンゴー（アフリカ音楽研究家）  
8/26（土）子ども向け楽器作り体験ワークショップ  
「小さな尺八 “一節切（ひとよぎり）” を作って演奏しよう！」  
13:30 ～ 16:00 アクトシティ研修交流センター 36 音楽セミナー室  
講師：相良保之（一節切研究者）  
8/27（日）子どもワークショップシリーズ  
「インドネシアの伝統芸能を楽しもう～影絵人形ワヤンを作って、  
お芝居をして、ガムラン演奏と踊りを体験！～」  
12:30 ～ 16:30 アクトシティ浜松研修交流センター音楽工房ホール  
講師：ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実、西岡美緒ほか
- ミニコンサート 14:00、15:30（各 30 分） 天空ホール  
7/23（日）「サクソアンサンブル」出演：浜松サクソフォンクラブ  
8/6（日）「金管アンサンブル」出演：ハマツブラスアンサンブル  
8/12（土）「南米の楽器アルバ」出演：長島忠之（アルバ）ほか  
8/13（日）「クラリネットアンサンブル」出演：浜松クラリネット・クワイアー

### 浜松市楽器博物館だより

平成 29 年 5 月 31 日発行 No.118 編集 浜松市楽器博物館  
〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1  
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 URL <http://www.gakkihaku.jp/>